

「第 30 回すかがわ国際短編映画祭」 ゲストトーク：後編

2018 年 5 月 12 日に福島県須賀川市文化センターで開催された、第 30 回すかがわ国際短編映画祭でのゲストトークの全文を公開いたします。

ゲストトークは、「巨神兵東京に現わる」とそのメイキング映像「巨神兵が東京に現われるまで ミニチュアで見ると昭和平成の技」の上映後に行われました。

【ゲスト】

庵野秀明（「巨神兵東京に現わる」企画・制作・脚本／ATAC 理事長）

樋口真嗣（「巨神兵東京に現わる」監督／ATAC 理事）

尾上克郎（「巨神兵東京に現わる」監督補・特殊技術統括／ATAC 発起人）

尾上 それでだんだん…人聞き悪いですけど、どんどん焦ってきて、その裏で須賀川市さんとずっとお話を進めていたんですよ。

樋口 一方で、今度は東映でも…この話もしていいんですか？

尾上 あ、大和はいいです。

樋口 2005 年公開の「男たちの大和」という、あれは東映配給の角川映画になるのかな。それで使用した戦艦大和のミニチュアというのが、宣伝でいろいろ各地を回った挙句に、東映の京都の撮影所にしばらく。

尾上 放置されてたんですよ。全長 7メートル弱ぐらいですかね。

庵野 3分割しないとトラックに入らないんで、運べないんですよ。

樋口 すごいよくできてますよね。唯一、水に浮かべられないだけで。いや本当、これ実は重要なことなんですけど、昔のミニチュアっていうのは全部、撮影所に実際のプールがあって、そこに浮かべなきゃいけなかったんですけど、最近、海は全部 CG なんで、この大和のミニチュアは海に入れない、水につかる必要はないということで、ものすごく精密に作ることができたって聞きました。

尾上 そうなんですよ。それで、庵野さんは、三笠がそろって、大和がそろったから、今度はイージスがあるといいねとか言うわけです。

庵野 ええ、イージスいいですよ。惜しいですね、もうちょっとでコンプリートなのに。

尾上 樋口さん、時間大丈夫ですか？

樋口 大丈夫ですかね。そんな感じで、今、日本中でそういうミニチュアというものが廃棄されたりする中、皆さんはそう思うかどうかわかりませんが、僕らはすばらしい宝物だと、本当にここで話し尽くせないくらいいいものだと思うんですが、捨てられるようなものがあれば、それを何としてでも取っておきたい。取っておく上で、残念ながら置く場所を我々は持っていないので、皆様のご近所をちょっとお借りしたいとあちこちお願いして回って、日本中のすばらしい財産が今、須賀川に集結し始めております。（拍手）

ありがとうございます、本当に皆様のご理解あつてのことだと思います、これは。と

いうところですね、大変申し訳ないんですが、私…。

尾上 今日何か、仕事が遅れて東京に帰らなきゃいけないらしいので。

樋口 今、木曜の12時から放送の。

尾上 宣伝するの？（笑い）

樋口 宣伝はやめておきますね。ちょっとあるアニメのアフレコが今からありまして、東京に戻らなきゃいけない、すみません。なのでこの続きは、「特撮博物館」の立役者で、今、我々ATACのアーカイブ事業の推進者として辣腕をふるっている三好さんにちょっと私のかわりに登壇していただいて。

尾上 ではどうも、樋口監督でした。

樋口 どうもありがとうございました。（拍手の中、退場）

尾上 じゃ、気をつけて。

庵野 気をつけて。

尾上 樋口君が仕事になったんで、新たに、急遽お願いしたんですが、三好さん、ちょっとお話お願いします。（三好登壇）

三好寛（以下、三好） 特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構の事務局長を務めています、三好と申します。よろしくお願ひいたします。（拍手）

ありがとうございます。今、「ひそねとまそたん」のために（笑い）帰ってしまいました樋口さんは、その特定非営利活動法人の理事をやっていただいています。理事長はここにいます（庵野を見る）。発起人がその隣（尾上を見る）にいらっしやいます。ということで、よろしくお願ひいたします。（拍手）

尾上 実は、三好さんは「特撮博物館」のときはジブリにいて、そこの担当をやってたんですね。僕らそれ以来のつき合いなんですけど。まあ、ヘッドハンティング。

庵野 引き抜きです。鈴木さんに話つけて、三好をくださいって。

尾上 それで今は、その庵野秀明監督の遠大なる計画のアーカイブ事業の中に引きずり込まれ、中心人物となり、それで須賀川市さんとの連携も、2015年からですね。

三好 そうですね。ここ、須賀川に視察に僕が訪れたのは2015年です。

尾上 まだ市庁舎が仮市庁舎のころに、市長さんや、今は文化スポーツ部長としてお世話になってる、当時観光交流課の課長でした、安藤さんにいろいろと動いていただいて、実は統廃合で閉鎖されたいい場所があるとご提案いただいて、僕らが見に行ったという流れですね。

三好 ある使われなくなった施設を、「これ使っていいんですか、本当に」っていうようなところをお借りできるようになったんです。しかもダメもとで「安藤さん、すみません、窓は全部ふさいでいただけますか」と。それから「セキュリティーを入れてもらえますか」と。さらに「温湿度を一定にしたいのでエアコン入れてください」と言ったら、全部やってくださったんですね。ありがとうございます、本当に。（拍手）

庵野 ありがとうございます。

尾上 ありがとうございます。大英断だと思うんです。それがちょうど「特撮博物館」熊本展が終わった直後ですから、2015年の夏。

三好 おかげで三笠の行き場ができました。

尾上 そのころからアーカイブに関しての我々の活動がだんだん本格的に進み始めたということです。アーカイブをNPO化していくのはいつごろから始まったんですって。

庵野 三好が来てからですね。

尾上 やっぱり同じくらいですか。

庵野 そもそもそうしようと思ってたんですけど、なかなかできなかつたんですね。で、いろんなピースがそろったので、そろそろ申請できるかなと。

三好 僕がカラーに移ったのが2015年の11月で、そこから少しずつ企画を進めたんですけど、一方でなぜか「シン・ゴジラ」の本を作るとか、そういうこともやってたので。

尾上 遅れに遅れた。

三好 遅れました。本当にすみませんでした。

尾上 でき上がったら、まるで漬物石のような重い本でしたけど。そうだ、途中で「シン・ゴジラ」作ったりなんかしてたんですね。「シン・ゴジラ」は2016年でしたっけ。

庵野 2016年公開ですね。撮影は15年の後半からです。

尾上 そんなときにこんなことやってたんですね、忙しいのに。一方でずっと文化庁との調査活動もやってたんですが、最初の文化庁との話し合いのときから福島県とのつながりがあって、須賀川市さんのほうからも福島県に働きかけをしていただいて、ようやく2017年、正式に福島県も我々と協力してやっていくことになったんです。ちょうどそのころ、アタックって僕らは呼んでますけど。

三好 正式には「アニメ特撮アーカイブ機構」。

尾上 アニメのA、特撮のT、アーカイブのA、Cでアタック。

三好 Cはセンターですね。

尾上 それを設立したということなんです。一方で須賀川市さんと、本当に恒久的に、特撮の正倉院的なものをここに置かせていただけないかというお話をしたら、賛同していただいて、ひそかに既存施設を利用した新たな構想を練っていて、それも実は今、進行中ですね。これは時期的にはいつになるんですって？

三好 まだもうちょい先です。

尾上 でも、遠くない将来必ずここに、須賀川市に、我々のアーカイブセンター、特撮のマストとなる施設ができるのは間違いないですね。(拍手)

三好 ありがとうございます。

庵野 本当にありがとうございます。

尾上 ありがとうございます。いや、本当うれしい限りなんですよ。

三好 尾上さんがおっしゃるように、正倉院的な施設がいいのかなと。

尾上 そうですね。もちろんこれには、僕らだけが頑張ってもしょうがないところがあり

まして、やっぱり皆さんに盛り上げていただかないとなかなか先に進まないところがあるんです。

三好 そうですね。「特撮って何？」みたいなところを少しずつ「いや、おもしろいんですよ、楽しいんですよ」というのに変えていきたいです。

尾上 実は今年、福島県と須賀川市と、これまた長いですよ、「特撮文化推進事業実行委員会設立協議会」というのができまして、いよいよ特撮を文化として、福島県、須賀川市が中心になってもっと世界中に広めていこうという協議も始めました。やっぱりそれがけっこう大きい動きですね。

庵野 そうですね。去年ようやく、法律上の用語として「特撮」っていうものが入りましたから。

尾上 やっと入りましたね。

庵野 本当に、去年初めてなんですよ、特撮ということが国に認められたのは。

三好 それは本当に尾上さんたちや、今日ワークショップをやられる三池さんや、アニメ特撮研究家の氷川竜介さんたちが文化庁の調査活動をすごく地道にやってくださったのが大きいです。

尾上 今日来てくれる予定だったんですけど、忙しくて来られなかった氷川さんやいろいろな方々が参加してます。アニメと特撮っていうのは、もう、我々は垣根を取り払って、非常に大事な日本の文化だと思っておりますので。理事長が何て言ったって庵野秀明ですから、これはアニメを外すわけにもいきませんし。やっぱり2つが一緒になることで、もっと強い力があるということですよ。

庵野 そうですね。僕らの世代はアニメと特撮は一緒なんで、同じようなものですから。いつから分かれたんですかっていう感じですね。80年代ですか。

三好 決していかがみ合うことなく、アニメと特撮はともに残すべき文化であるという考えで、我々はやっていますので。

尾上 まあ、どちらもほっといたらだんだんなくなって行って、そんなのあったの？ みたいになってしまうので。多分100年ぐらいたつと浮世絵みたいになってるんじゃないかと、僕は実は思っています。

三好 技術的にそういうものが忘れられたり、ものがなくなったりすると本当に危険です。しかも浮世絵の場合だと日本で保管すべき絵がどんどん海外の美術館や博物館に行って、なかなか日本人が本物を見られないという状況になってしまったんですけども、特撮やアニメでそういうことにならないようにしたいと考えています。でもまずはものを捨てたりせず、体制を整えて、本当に残していく。その残したものを使っているんなことをやろうと思っています。展覧会でもいいですし、出版でもいいですし、商品を作って売ってもいいですし、それからワークショップをやって、こうやって映画を作るんだよと教えるような取り組みをしてもいいですし。そういったことをやったら、新しい世代の人たちが、何かおもしろいことができるかと思っ、ひょっとしたらおもしろい作品ができるかもしれ

ない。

尾上 最終的にはそこですよ。

庵野 継承が必要なんですね。魂と技術と両方ですけど。若い人がいろいろ、アニメも特撮もおもしろいものを作ってもらえれば本当にいいなと思ってます。この中でやる人、いないですかね。

尾上 多分、拠点ができるのと、我々もしょっちゅうそこに来て、修復事業をやったりとか、多分地元の方々にもお手伝いいただかなければいけないと思っていて。もし心ある若者がいたら手伝ってほしい、本当に力を貸してほしいと思ってます。つけ加えると、我々がこうやって声を上げ始めて、ありがたいことにいろんな映画会社が、「ひょっとしてこれ大事にしなきゃいけないのかな」って思い始めた感じがあるんですね。それで、今まではもう平気で捨ててたのを大事にしてくれるようになってる。どこかで残りさえすればいいんです。捨てられてしまったり海外に散逸してしまったりしたら、もう二度と戻ってこないものなので、そこを食い止めたい。だからといって、我々が全てを保管する必要はなくて、皆さんがそれぞれ大事にしていただければいいなと思っています。

三好 そうですね。持っている方と関係性を築いて、いざとなるときに協力し合えたらいいなと考えてます。

尾上 実はこういうコレクターの方ってすごく大事なんだけど、周りの人にとってそのコレクションは意外とゴミだったりするんですね。変な話、その方が亡くなると、ご遺族はどうしていいかわからないとか、就職して家を出た自分の息子がいた部屋の、本当はゴミじゃないのに、このゴミどうしようって捨てられちゃったりとか、よくあるんですね。それが実は大変な問題になります。

三好 実際ATACを立ち上げた最初の年にはそういう事例が相次いだので、ちょっとつらかったんです。だから皆さん、捨てないでくださいね。

尾上 本当に、大事なものがあつたら一声、お隣に声かけていただいて。ひょっとしたら、円谷さんの地元なんですすごいものが隠れてるんじゃないとか、そう思ってます。

それで来年、円谷英二ミュージアムというのが須賀川市民交流センターにできるんですが、そちらも実は僕がお手伝いさせていただくことになっていて、たびたび須賀川にも来ております。円谷英二ミュージアムとも将来的には我々の活動と連携を、何かしらの形でしなきゃいけないだろうとも思ってます。もはや切っても切れなくなってしまうということですね。

庵野 そうですね。

三好 やっぱ、円谷英二さんという存在の縁を感じますね、すごい。

尾上 本当そうですね。

三好 皆さんのアイデンティティーと言ったら大げさかもしれないですけど、そういう郷土の誇りみたいなところとうまくシンクロできればと思います。

尾上 そうですね。もうちょっと円谷英二さんをもっと世界の方に知っていただいて、須

賀川も知っていただき、かつ我々の活動も皆さんに知っていただき、ご理解いただきたいと思います。(拍手)

庵野 ありがとうございます。(拍手)

尾上 じゃ、何か最後に理事長、一言お願いします。

庵野 僕の言いたいことは二人が言ってるので繰り返しですけど、本当に須賀川市に声を上げていただいて、本来なら捨てられるような、本当に大事な資料がここに保存できる道筋が今見えています。ここにいる皆さんのおかげです、本当にありがとうございました。(拍手)

尾上 まだ始まったばかりですが、あと 100 年 200 年…。(感極まって沈黙)

三好 これは未来のためにやってる事業だと思ってます。今、小さいお子さんも、これから生まれる人も、特撮が大好きな人になってほしいと思ってます。何というか、ここにふるさとのように帰ってくれば、三笠やいろんなミニチュアがあって、機会があれば触れ合うことができる、そういうチャンスのある施設がある。何より、特撮を皆さんの心の中の誇りにできる文化として、存在として思っていたきたいです。本当に、皆さんのおかげです。ありがとうございます。(拍手)

尾上 どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。(拍手)

庵野 ありがとうございました。(拍手)

尾上 すみませんでした。今日はこれで終わらせていただきます。

司会 本当にありがとうございました。庵野さん、樋口さん、そして尾上さん、三好さんに盛大な拍手をお願いいたします。(拍手)

(2018年5月12日 福島県須賀川市文化センター大ホールにて)